

平成28年度「中学校学力向上対策支援事業」に係る 第1回中学校教科（国語科）指導力向上協議会

日時 平成28年5月30日（月）13:30～16:15

会場 コンパルホール 多目的ホール

概要

1 開会行事

義務教育課長 米持武彦

○中学校学力向上対策 3つの提言に関する内容及びその背景

2 講義「生徒が主体的に取り組む中学校国語科の授業づくり」

国立教育政策研究所教育課程調査官・学力調査官

文部科学省中等教育局教育課程課教科調査官 杉本 直美 氏

国の動向

○今何が言われて～現在の児童生徒は厳しい挑戦の時代を生きていく

何のために ～自立した人間、他者と協働しながら価値の創造、未来を切り拓いていく力
何を換えようとしているのか～教育の在り方を一層深化させようとしている

○次期学習指導要領改訂について

・論点整理を必ず読んでほしい！

・論点整理（解説）

・改訂の方向性について

YouTube 文部科学省動画チャンネル
で簡単に確認できる

・改訂に向けた検討体制もチェック

…国語ワーキンググループ（作業部会）だけでなく、言語能力の向上に関する特別チームが編成されていることに注目

・育成すべき資質・能力の3つの柱を頭に入れておくこと！

「どのような社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」（主体性、多様性、協働性等）

「何を知っているか、何ができるか」（個別の知識・技能）

「知っていること・できることをどう使うか」（思考力・判断力・表現力等）

アクティブ・ラーニングの重視（方式化されたものではなく授業改善の考え方）

対話的な学び

深い学び

主体的な学び

- ・特に新しい視点
- ・一層深く学ばせることが重要
- ・どこで深く思考させるのか

4つのキーワードに即した求められる国語科授業のイメージ

言語活動の質の向上

観点① 「課題解決的な活動を通して、思考・判断・表現しているか？」

→教師の準備したマニュアルどおり×（課題解決の意義は薄い）

→課題解決のために、児童生徒が試行錯誤することが許容されているか？

→いつ、何を、思考・判断・表現させるのか？

→本当に思考・判断・表現しているのか？

※授業づくりの留意点

①想起させる（今までどのような力を付けてきたか）

②①を使わせる（付けてきた力の何を使えば、課題を解決できるのかを生徒自身の考えさせ、判断させる）

③言葉で深く考えさせ、言葉を駆使して表現させる（国語の特色）

→求められる授業づくり

(例)・導入の重要性《解決する必然性の共通理解(課題の質)、プラス1の工夫(一つの課題を2グループで担当し比較、全国学テの活用等)

観点② 「生徒が主体的・協働的に学習しているか？」

→主体的? 単元を通して課題を追求していこうとする姿

→協働的? 何のためにグループ学習?他者と交流?

そこに、指導が入らなければ学習にはならない

観点③ 「指導事項に即したつきたい国語の力が確実に身についているか？」

→改めて、指導事項に着目!

→学習の振り返り

・振り返りの時間を取れば良いものではない!

・どのような内容が書かれていれば、付けたい力が付いたと言えるのか?ここが重要

観点④ 「観点別評価、目標に準拠した評価を適切に行っているか？」

→改めて、評価の考え方を確認!(国研資料)

・観点別評価の考え方

・目標に準拠した評価の考え方

→指導事項との関係

・評価は一層シビアになっている

・妥当性のあるものにしていく

・確実に身に付いているかどうか、生徒にも確認させる場面

→評価の仕方

・まずCの生徒はすぐ分かる(すぐに手を講じる)

・その他の生徒は暫定的に全員B

・全員Bの中で十分満足できる者がA

※授業づくりの留意点

○付けたい力と評価規準・評価方法との整合性

・言語活動の具体の姿を想定する

○授業時数と評価する項目のバランス

3 実践発表

玖珠町立玖珠中学校指導教諭 穴井清佳 氏

「ポスターセッションで作品の魅力を伝えよう」

～スクールミュージアムでの図書館活用授業をとおして～

○指導事項及び指導計画

第1学年 「読むこと」カ

本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ること。

↓

《生徒の状況》・複数の資料から、必要な部分を抜き出し、まとめることが苦手

・学習課題を引き受けるための、まねてできるワークシートが必要

↓

《指導計画》1: スクールミュージアムの意義づけ

2: ポスターセッションを学ぶ

3: 美術作品の鑑賞について(美術科)

4: 美術作品の情報を紹介する(情報カード、ワークシート)

5: 美術作品のポスター下書き(ポスター)

6: ポスター発表原稿作成(発表原稿)

- 7：県立美術館の講和（美術科）
- 8：ポスターセッションの練習
- 9：2、3年生へのポスターセッション
- 10：ポスターセッション発表

4 説明「『中学校国語科指導資料』の活用について」

義務教育課指導主事 大渡 克教

○協議会の目的

- 国語科
- ①更なる言語活動の充実を
 - ②多様な図書資料等を活用する授業の推進
 - ③「めあて」の設定や指導に生かすことのできる「より具体的な評価規準」の設定
 - ④参考資料として「国語科指導資料」等を組織的に利活用

5 指導講評

言語活動

付けたい力（指導事項）を指導するための有効な言語活動が設定され、生徒の学習意欲を引き出すものになっているか？

言語活動（教材・題材）

- ・スクールミュージアムを教材に、何か授業できないか？
- ・他教科との連携が図れないか？
- ・こんな授業がしたい！
- ・ポスターセッションをやりたい

↓

- ・△「読むこと」に関する言語活動がポスターセッションで良いのか？
- ・△ポスターセッションが初めて×
「読むこと」の領域で、なぜポスターセッションのやり方を指導しなければならないのか？
- ・△ポスターセッションにふさわしい課題とは？
- ・△何の領域で、何の力を付けたいのか自覚がない
- ・△ワークシートによる細かな指示
書くことでどれだけ読めたかを見ることはできる。しかし、生徒は書いているから入れているだけ、中学校1年生の「目的に応じて必要な情報を読みとること」に合った活動であったのか？
- ・△今回の「目的」は「ポスターセッションで作品の魅力を伝えよう」なので、魅力を伝えるためにはどんな情報を紙面に書くかを考えさせなければならない

↓

「言語活動の質の向上」

- ・ぴったりマッチした言語活動を！
- ・あれもこれも・・・活動が盛りだくさん×
- ・付けたい力を明確にし、焦点化すべき

学習評価

つけたい力と評価規準・評価方法との整合性（具体的に評価できるか？）

- ・△どうあれば、「読むこと」カの力が付いたのか？
- ・△どういうポスターセッションの姿がBなのか？

改善案

※もし複数の領域を評価するのであれば

「この作品を展示したい！～とっておきの情報を使って皆を説得します～
→美術作品の作品の魅力を伝えるために、紙面に書くべき情報を思考・判断

（文責：義務教育課 担当：中津教育事務所 岩本）